

社会科（地理的分野）学習指導案

1 単元名 日本のすがたとさまざまな地域

2 単元設定の理由

（1）単元観

本単元は「地球儀や地図を活用し、我が国の国土の位置、領域の特色、地域区分などを取り上げ、日本の地域構成を大観させる」ことを大きなねらいとしている。そのねらいを達成するために、本単元は、まず、「国土の位置と領域」の特色を様々な角度からとらえさせ、我が国が直面している領土問題や経済水域の問題について学習させる。その後、「都道府県の構成と地域区分」を地図上で確認するなどして、その位置と名称に関する知識を確実に習得させ、このような知識や技能を活用して大まかな日本地図を描けるようにするという構成になっている。本単元の学習を通して最終的に求められる「大まかな日本地図を描く」ことは、決して日本を構成する主な島々の「大まかな形状を描けるようになる」ことにとどまるものではない。「経度や緯度」「領域の広がり」「日本の島々の大まかな位置関係」「さまざまな日本の地域区分」などについての知識を身につけ、これらの知識に基づいて「大まかな日本地図を描く」ことができるようにするものである。

また、本単元の内容を確実に習得させることは、この後の日本の地域学習を円滑に進める上で極めて重要である。さらに、歴史的分野や公民的分野における領土の確定や領土や領域の問題を扱う単元においても、本単元の学習内容は基礎となるものである。

このように、本単元の内容を確実に習得させることは、社会科の学習に意欲的に取り組ませるうえで大変重要なことと考える。

（2）生徒観

生徒は、小学校第5学年で国土の位置、地形や気候の概要などを学習している。また、前単元の「世界の地域構成」においては、国家を構成する条件、緯度と経度、様々な国境などについて学習している。本単元では、これらの学習で得た知識や、地球儀や地図の活用に関する技能を踏まえつつ、「国土の位置と領域」および「都道府県の構成と地域区分」などについて学習していくことになる。

社会科の授業においては、ノートをとる際に、板書を単に書き写すだけではなく、授業中の説明や、教科書や資料集に記載されている内容で気になったことがらを、メモとして書き記すように指導してきている。また、思考力が求められる発問に対しては、自分なりの考えをノートに書かせて、発表させるようにしている。そのため、少しずつではあるが、学習の深まりがみられるノートを作ることができるようになってきており、自分の考えを積極的に発言する場面も見られてきている。

（3）指導観

本単元は「世界の地域構成」と並び、地理的分野の学習のいわば導入部分に位置づくものであり、本単元の学習内容は、日本の地理学習の基盤となるものである。それと同時に、日本の地理についての関心や学習意欲を高めるものでなければならない。

本単元は地理学習の基盤をなすものであるから、基礎的な知識や技能を身に付けさせることは非常に大切である。それが単なる覚え込ませる学習にならないためには、「なぜだろう」「どうなっているのだろう」といった「問い」を常にもたせて学習をすすめていく必要がある。

したがって、指導に際しては、効果的な地図や映像資料の提示を通して、生徒に本時を貫く「問い」を抱かせることを何より大切にしていきたい。そして、普段から大切にしているノートの効果的な活用を通して、地理学習の基礎となる知識の定着を図りたいと考える。

3 単元の指導目標

地球儀や地図を活用させながら、世界的な視野からみた日本の国土の位置や領域の特色を多面的・多角的に追究させ、日本の地域構成の基本的な枠組みについての知識を習得させ、日本の地理についての関心や学習意欲を高める。

4 単元の指導計画（全6時間）

- ・日本の位置を調べよう（1時間）
- ・日本の領域をめぐる問題を知ろう（1時間）・・・・・・・・・・本時
- ・日本をいくつかの地域に分けよう（1時間）
- ・都道府県を確かめてみよう（1時間）
- ・いろいろな視点から都道府県をながめよう（1時間）
- ・日本の略地図を描いてみよう（1時間）

5 本時の学習指導

（1）題材名 「日本の領域をめぐる問題を知ろう」（2／6時間）

（2）題材について

本題材は、「日本の領域をめぐる問題」について、北方領土問題を中心に1単位時間で扱うものである。北方領土問題とは、「日本がポツダム宣言を受諾し、降伏の意図を明確に表明したあとにソ連軍が北方四島に侵攻し、日本人島民を強制的に追い出し、さらには北方四島を一方的にソ連領に編入するなどし、ソ連が崩壊してロシアとなった現在もなお、北方四島を不法に占拠し続けていることによって生じる問題」（北方領土問題対策協会ホームページより）のことである。ソ連に占領される以前には、北方領土には17,000名ほどの日本人が生活していたが、それらの人々は全員が島外に追放され、故郷を離れた生活を強いられることとなった。周辺の海域は世界の三大漁場に数えられ、昆布、サケ、カニなどの豊富な水産資源に恵まれており、占領以前も水産業が盛んであったが、現在、日本の漁船が自由に漁をすることはできず、莫大な入漁料を払い、漁獲量の制限を受けながら漁を行っているのが現状である。しかし周辺海域でのトラブルは後を絶えず、平成18年には納沙布岬から3キロほど沖合の貝殻島付近で根室のカニかご漁船がロシア警備艇に銃撃・拿捕され乗組員一人が死亡、船長ら三人が国後島に連行されるという事件が起こっている。

日本政府は北方領土の返還を求め、継続して交渉を行ってきた。現在では「ビザなし交流」と呼ばれる民間人の相互訪問事業や元島民の「自由訪問」などが行われるなど、返還に向けての環境作りは行われている。その一方で現在、17,000人あまりのロシア人が北方領土で生活し、択捉島では、近年、大規模な水産加工を行う企業が急成長をとげ、地下資源産出の可能性も噂されている。さらにロシア政府は、北方領土を含めた千島列島の開発に520億円以上の投資を行うという計画を発表しており、北方領土返還に向けての道のりは依然として険しいと言わざるを得ない。

（3）題材の指導について

「日本の領域をめぐる問題」については、地理・歴史・公民の各分野で取り扱っていくことになるが、今回は中1の生徒を対象とした地理の学習であるため、日本の「どこで」領域をめぐる問題が発生しているのかを確実におさえる必要がある。そのために、「日本と周辺諸国の間に領土をめぐる問題が存在すること」についての関心を高め、問題となっている北方領土や竹島についての地理的な知識を定着させることが必要となる。本題材の指導に際して、特に意識しているのは次の3点である。

- ①写真資料を活用し、日本の領土問題に関する疑問を引き出し、北方領土に関するクイズを解かせることで、北方領土に関する知識の定着を図る。
- ②写真資料や実物資料を活用し、日本が北方領土の返還を求め続けていることを理解させる。
- ③授業の中心は北方領土問題であるが、竹島についても映像資料を提示し、授業以外の機会でも領土問題について考えようとする意識をもたせる。

(4) 本時の目標

- ①北方領土の島々の名称、位置、面積、主な産業について理解する。(知識・理解)
- ②日本政府が北方領土の返還を求め続けていることを理解する。(知識・理解)

(5) 本時の学習過程(T=教師の動き・発問・指示 MQ=本時の主発問 S=生徒の動きと予想される反応)

	教師の動きと主な発問・指示	生徒の動きと予想される反応	指導上の留意点
導入 10分	<p><北方領土について関心をもつ></p> <p>T1これらの写真がどの国で撮られたものか考えてみましょう。</p> <p>T2これは全て日本で撮られた写真ですが、日本なのに日本人がいけない場所が一カ所あります。どこでしょう。</p> <p>T3「北方領土」は日本固有の領土であるが、ソ連及びロシアに不法に占領され続けていることを説明する。</p>	<p>S1写真を見て予想し、発表する。</p> <p>S2予想し、発表する。</p> <p>S3 ノートに本時の課題を書く。</p>	<p>写真資料をテレビで提示する。</p> <p>「北方領土」という言葉を引き出す</p> <p>第二次大戦後、不法に占領されているという事実のみを簡単におさえる。</p>
MQ「北方領土」とはどんな所？			
展開 20分	<p><北方領土について知る></p> <p>T4北方領土の島々の名前、場所を確認しよう</p> <p>T5クイズに答えながら北方領土の特徴について学習しよう 島と本土との距離 島の面積 島の産業 島で暮らす人々の数 など</p>	<p>S4配付された地図をノートに貼り、その横に漢字で名前を書く。</p> <p>S5クイズに答えながら、北方領土の特徴についてまとめる。</p>	<p>付箋の地図を配付し、書き込みをさせる 評価①</p> <p>ワークシート 評価①</p>
展開 15分	<p><日本が北方領土の返還を求め続けていることを知る></p> <p>T6第二次世界大戦後には、北方領土以外の島々も占領されていた。それらの島々はどうなっているのだろうか。</p> <p>T7 北方領土については、日本政府はどのような対応をしてきたのだろうか。返還にむけての動きはないのだろうか。</p>	<p>S6教科書の地図から領土返還運動について調べる。 ・北方領土以外は返還されている</p> <p>S7資料や教科書から返還運動についてまとめる。 ・政府や様々な団体が返還を求めている ・墓参や民間人の交流が行われている</p>	<p>掛け地図の活用 評価②</p> <p>「返せ！北方領土」の旗 北方領土の日についてもふれる 評価②</p>

終 結	<北方領土以外にも領土に関する問題があることを知る>		
5 分	T8北方領土以外にも、日本人が自由に行けない場所がある。どこだろう。	S8「竹島」の位置を地図帳で確認し、韓国との間で問題になっていることを知る。	竹島の写真の提示

(6) 評価

- ①ノートやワークシートに、北方領土の島々の名称、位置、面積、主な産業について正確に記入することができたか。(知識・理解)
- ②ノートに、日本政府が北方領土の返還を求め続けていることをまとめることができたか。(知識・理解)

(7) 板書計画

<p>2 日本の領域をめぐる問題について知ろう</p> <p>Q「北方領土」ってどんな所?</p> <p>(1) 北方領土とは</p> <p>北方領土 1945年から現在まで、ソ連～ロシアによって占領されている日本固有の領土</p>	<p>(2) 返還へ向けて</p> <p>政府→返還を継続的に要求</p> <p>北方領土の日(2月7日)</p> <p>もうひとつの領土問題 「竹島」</p>
--	--

授業資料

北方領土クイズ!! めざせ全問正解!!

①北海道根室市納沙布岬から最も近い歯舞群島の貝殻島までの直線距離は?

A: 370m B: 3.7km C: 37km D: 370km

②北方領土の島々の合計面積と長崎県の合計面積 どちらが広い?

A: 北方領土 B: 長崎県 C: ほぼ同じ

③現在、北方領土に何人ぐらいのロシア人が住んでいる?

A: 17 B: 1700 C: 17000 D: 170000

④ソ連による占領前、何人ぐらいの日本人がいた?

A: 17 B: 1700 C: 17000 D: 170000

⑤択捉島には大きな工場があります。何を作っている?

A: 自動車部品(ハンドルなど) B: 木材加工品(家具など) C: 水産加工品(缶詰など)

※周辺の()は「世界」に含まれます。